

# 令和6年度広瀬川における天然アユ遡上調査結果（5月分）

令和6年6月28日  
宮城県水産技術総合センター  
内水面水産試験場

宮城県水産技術総合センター内水面水産試験場では、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、天然アユの遡上状況を調査しています。本年度の5月分の調査結果は、以下のとおりです。

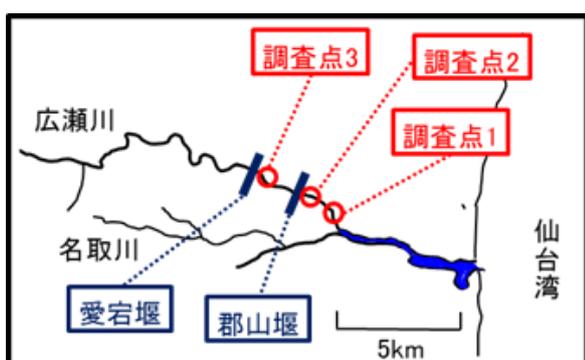


図1 アユ遡上調査地点

## (1) 調査点

- 調査点1：名取川との分岐点から500m上流（河口から7.5km）
- 調査点2：郡山堰下（河口から10km）
- 調査点3：愛宕堰下（河口から11.5km）

## (2) 調査実施日

5月9日、23日

## (3) 調査方法

各調査点において、投網を10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、1調査点あたり50尾のアユを当场に持ち帰り、体サイズ（標準体長および体重）を測定しました。広瀬名取川漁業協同組合では、調査日以前に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。また、令和5年度からは北上川産天然種苗の放流も行っており、広瀬川の天然アユとの区別はできませんでしたが、総数に対して少数なので、補正には考慮していません。



図2 調査風景①



図3 調査風景②

#### (4) 調査結果

##### 各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（平成29年（2017年）から令和3年（2021年）までの最大値と最小値を除いた平均値及び直近3ヶ年）を図4に示しました。また、アユの平均体長を表1に示しました。なお、令和5年度（2023年）の5月の1回目の調査日は11日ですが、過去の調査日と近い5月上旬として比較しました。また、令和5年度は人工種苗の判別を行っていませんが、最上流の調査点3よりも上流で放流していること、これまでの調査でも混入率が小さかったことから、すべて天然アユとして取り扱っています。

##### ○調査点1

投網1投あたり38.4尾（5月上旬）、40.1尾（5月下旬）でした。5月上旬は過去2年と比べて多くのアユが採捕され、5月下旬も昨年度に次いで尾数が多い状況でした。また、昨年度と比較して小型の傾向がみられました。

##### ○調査点2

投網1投あたり44.1尾（5月上旬）、27.9尾（5月下旬）でした。5月下旬は過去2年と比べて多くのアユが採捕されました。また、昨年度と比較して小型の傾向がみられました。

##### ○調査点3

投網1投あたり14.7尾（5月上旬）、62.4尾（5月下旬）でした。5月下旬では過去2年と比べて多くのアユが採捕されました。また、昨年度と比較して小型の傾向がみられました。

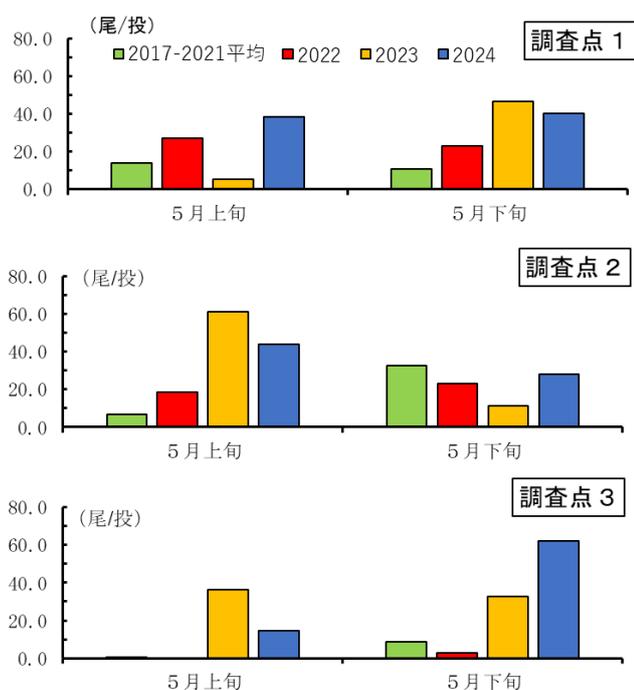


表1 各調査地点のアユの体長

採捕年月	調査点1		調査点2		調査点3	
R6.5月	7.74 ± 1.53	7.24 ± 1.47	8.06 ± 8.61			
R5.5月	8.76 ± 1.71	9.99 ± 2.55	9.02 ± 2.19			

単位：cm、±は標準偏差（標本のばらつき）

図4 各調査地点におけるアユの平均採捕尾数